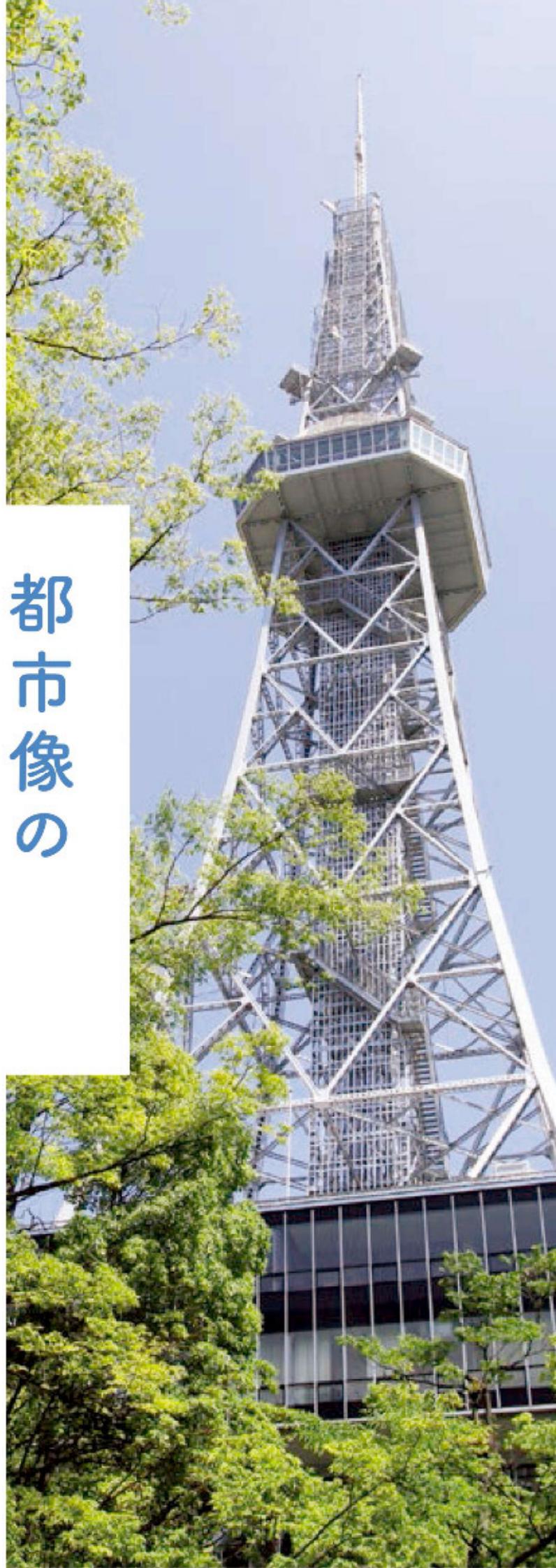


都市像の 実現に向けて

5つの都市像の実現と
市民サービスの推進に向けて、
45の施策に取り組みます。

市民と行政の協働を原動力に
ともに未来へ――

各都市像等に関わる
さまざまな分野で活躍する
まちの皆さんの取り組みを紹介します。



人権が尊重され、
誰もがいきいきと暮らし、
活躍できるまち

社会で役割を担う
老人クラブの活動こそが
健康長寿の秘けつ

公益社団法人
名古屋市
老人クラブ連合会
会長
三溝 芳隆さん



かけがえのない生きがい
—名古屋市老人クラブ連合会について教えてください。

人生100年時代といわれるようになりますが、いつまで健康でいられるか、長く生きたとしても、やがて寝たきりになり、認知症になつたりする、そうした不安は常につきまといます。そんな状況を想像するのはとてもつらく、高齢者にとって、やはり健康は切実な願いです。元気な身体で、ボランティア活動などを通して社会に貢献し、生きがいある暮らしを送る。そんな社会の実現に向けて活動しているのが老人クラブ連合会で、全国的なネットワークを持つ高齢者組織となっています。

名古屋市老人クラブ連合会は、1281クラブ、会員数は5万6



千人を超えていきます（令和2年2月20日）年1月時点）。「のばそーー健康寿命担おう！地域づくりを」をテーマに掲げ、健康づくり、生きがいづくり、地域づくりを活動の目的としています。老人クラブは、徒歩で集まれること、無理なく頻繁に活動できることができ、頗なじみのご近所さんが集まっています。たくさんの仲間と一緒に、ウォーキングや体操、グラウンドゴルフを行ったり、公園の美化活動などに取り組むのは楽しいですし、時には旅行をすることもあります。また、経験豊かで地域のことにも精通している高齢者は、地域活動に貢献できます。これは高齢者にとってもかけがえのない生きがいとなります。高齢者がいきいきとしているまちは活気がありますよね。

**地域とともにあ
る老人クラブの役割**

——今後、力を入れて取り組んでいきたいことや目標は？

高齢になると今までできていた

ことができなくなつて、生活に不便を感じるようになります。そんな時こそ私たちの出番です。地域の実情や同世代の気持ちがわかりますからね。「みんなで楽しくやろう」という声かけやお互いを思いやる心が大切です。

老人クラブの利点は、住み慣れた地域に根ざし、仲間づくりで団結し、地域のさまざまな困りごとも解決していくところ。点ではなく線でつながっていくことが、老人クラブの良さだと思います。このことを、これからもアピールしていきたいと考えています。名古屋市老人クラブ連合会では、より親しみやすく、活動や魅力を知つてもらうため「なごやかクラブ名古屋」の愛称で活動しています。会員はもとより、会員以外の人意見も聞き入れながら、「名古屋の老人クラブはちょっと違うぞ」と、全国から注目されるような老人クラブをこれからもめざしていきます。

これができなくなつて、生活に不便を感じるようになります。そんな時こそ私たちの出番です。地域の実情や同世代の気持ちがわかりますからね。「みんなで楽しくやろう」という声かけやお互いを思いやる心が大切です。



北生涯学习センター体育館での体力測定



みんなでボッチャ！

ボッチャは、ジャックポール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤と青それぞれ6球のボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当たりして、いかに近づけるかを競うスポーツで、バラリンピックの正式種目となっています。障害の有無に関わらず、子どもから高齢者まで誰でも楽しむことができるボッチャですが、トップアスリートともなると、緻密な戦略や針の穴を通すような投球で、観る者を魅了します。



写真提供：一般社団法人日本ボッチャ協会

めざす都市像の実現に向けて取り組む施策

- 1.人権が尊重され差別や偏見がない社会をつくります
- 2.男女平等参画を総合的に進めます
- 3.生涯にわたる心身両面の健康づくりを支援します
- 4.適切な医療を受けられる体制を整えます
- 5.高齢者が生きがいを持って暮らせるよう支援します
- 6.高齢者が地域で安心して暮らせるよう支援します
- 7.安心して介護を受けられるよう支援します
- 8.障害者が自立して安心して暮らせるよう支援します
- 9.誰もが意欲を持って働けるよう就労支援を進めます
- 10.生涯にわたる学びやスポーツを通した生きがいづくりを支援します



主な成果指標	直近の現状値	目標値令和5年度	目標値令和12年度
基本的人権が尊重されている社会だと思う市民の割合	69.5% (平成30年度)	72%	75%
困った時に相談できる人が隣近所や地域にいる高齢者の割合	63.7% (平成30年度)	70%	75%

安心して子育てができる、 子どもや若者が豊かに育つまち

子ども一人ひとりが 権利の主体

——こどもNPOについて教えてください。

こどもNPOは、「子どもの権利条約（平成元（1989）年11月に国連総会で採択）」に定められる子どもの生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利を基盤として、子どもが社会参画する場や機会をつくり、子どもとおとながともに持続可能な社会をつくるために、乳幼児期から青年期を対象とした多様な事業を開拓しています。遊学、食そして居る場それだけで子どもたち自らが「やってみたい」と思う活動を通して、自分の現在と未来のことを考え、行動していく社会をめざしています。子どもの貧困が社会問題となっている昨今、子どもとおとなはパートナー

として、子ども自身の力が発揮できるように一緒に考えたり、寄り添う団体として活動してきました。

私が日々従事している「名古屋

市子ども・子育て支援センター（758キッズステーション）」には、主に0歳から2歳の乳幼児とその保護者が多く来られます。



子育てコンシェルジュが常駐する「758キッズステーション」

**子どもとおとなはパートナー
今と未来をともに歩む
関係づくりに寄り添っていく**

特定非営利活動法人
こどもNPO 理事

小野 智子さん



もの。寄り添う人は子どもの発達についての知識を持ち、子どもが伝えたいことや子どもの気持ちを理解する力が必要になります。



未来と一緒につくる 権利

—今後、力を入れて取り組んでいきたいことや目標は?

そこで、普段から講座などを通じて伝えさせていただいているのが「赤ちゃんにも人権がある」ということ。「子どもの権利条約」や「なごや子ども条例」にあるように、子育て支援は、子どもを育てやすくするだけではなく、子ども自身が育ちやすくなることが大切です。ただ、乳幼児期の子どもは、権利の主体といなながら、特別な保護が必要なんです。赤ちゃんは、明確な言葉による表現ではなく、泣いたり、笑ったりすることで自分の気持ちや感情を伝えます。これが意見表明であり、参加につながる

乳幼児期は、一生の土台が作られる大事な時期です。その時期に一番子どもと関わる保護者などへの支援が大切だと考え、その理解を深められるよう取り組んでいます。社会では、少子化が進む中、子育て支援として拠点等の整備が進み、既存の「集いの場」に来る人や、利用する人が減り、拡散していくように思われます。昔なら、子育て家庭同士の行き来が多くありました。今は「子どもが相手の家中を汚してしまったらどうしよう」というような心配や不安を持つ傾向があるようです。困ったことがあればインターネットですぐに調べられる時代ですが、自分としての判断軸を持ち、情報に

振り回されない力が必要になってしまいます。一人で抱え込み、きつい思いをし続けることのないよう、保護者同士で話し合える機会や場づくりがこれからも必要です。刻一刻と社会状況が変わるように、安心・安全に子育てできるように、情報を振り回されず、判断する力と知恵を提供できる私たちであります。みんなが主体的な存在です。そんな関係を子どもとおとなのがパートナーシップで築いていきますね。

めざす都市像の実現に向けて取り組む施策

11. 安心して子どもを生み育てられる環境をつくります
12. 子どもが健やかに育つよう、子ども・家庭を支援します
13. 虐待やいじめ、不登校から子どもを救います
14. 子どもの個性を大切にし、幅広い学力と豊かな心、健やかな体を育みます
- 15.若い世代が学び育ち、活躍できるまちをつくります



主な成果指標	直近の現状値	目標値令和5年度	目標値令和12年度
子育てしやすいまちだと思う市民の割合	79.8% (平成30年度)	83%	86%
自分のことを好きと答える子どもの割合	81.0% (平成30年度)	83%	86%



海外の大学の教授による講座の様子

3

人が支え合い、
災害に強く安心・安全に
暮らせるまち

つながりで守る 地域防災の要

——消防団の活動について教えてください。

前田さん 小坂消防団（緑区）は平成18（2006）年4月に、20人の団員でスタートしました。現在は、男性が19人、女性が団長の私1人です。定期的な活動としては、月2回の定例会や訓練、火災予防のため学区内を回る広報があります。

若園さん：名古屋市大学生消防団は、現在8分団で構成されています。私が所属している南山大学団は、地域の防災力向上と、広報活動を目的に活動しています。学区の防災訓練やお祭りに参加して、地域の人と関わりながら消火器の操作方法の指導や、子どもたちを対象とした防災クイズなどを実施しています。

て、合同訓練や親睦を目的とした行事を開催してきました。そのようなつながりから生まれるのが、いざという時の助け合いなんですね。火災の現場では、学区だけでは対応しきれないこともあります。そんな時は、近隣消防団の応援がとても頼もしいんです。広い範囲でつながりを持つておくことが大切だと思いますね。

前田さん：私はP.T.A役員のつながりから入団したのですが、今なお、人とのつながりが大切だと感じています。団長になつてからは、近隣消防団との関係も大切にし



(左)名古屋市
小坂消防団 団長
前田 美智子さん

(右)名古屋市大学生消防団
南山大学分団
若園 拓海さん

ケーションが取れるのも、消防団の魅力だと思います。

地域に親しまれる ONE TEAM

——今後、力を入れて取り組んでいきたいことや目標は？

前田さん：今後の目標の一つが「知識や経験の共有」です。消防団にはさまざまな職種の人人がいて、それぞれ得意分野が異なります。団員一人ひとりの得意なことを活かして、知識や経験を共有すれば、

一人ではできなかつたことができるようになると

思います。

若園さん：私の目標は、

消防団で得た知識や技能を社会になつてもさまざまなかな場面で活かしていくこと。家庭や職場を問わず、防災・防火上で危険な箇所はないか見極め、行動でくるようにしたいです。あと、家族や友人、同僚などに防災の大切さを伝え、防災の輪を広げていきたいと考えています。

前田さん：地域の消防や防災活動を通して、私が名古屋の未来に期待するのは、火事や事故がなく、みんなが住みやすいまちであつほしいということ。そのためにも、もつと地域に親しまれる消防団になつて、ふるさとを守つていきた

いです。



緑区消防団連合観閲式の一斉放水

若園さん：私が期待する名古屋の未来は、地域が一丸となつて、まさに「ONE TEAM」で防災に取り組むまちであること。そして、誰もが安心して暮らせる名古屋市であつてほしいと思います。



足元にある備え

名古屋市内には、地震などの災害による断水に備えて、200か所以上の応急給水施設があります。また、すべての市立小中学校などに「地下式給水栓」を設けていて、災害時に地域の皆さんができる操作することで飲料水を確保できます(操作に必要な器具は、学校の防災倉庫などに保管してあります)。いざという時のために、お近くの応急給水施設や地下式給水栓の場所を確認しておきましょう。



地下式給水栓（マンホールの蓋を開けると、中にじや口が設置されています。）



南山大学分団と中京大学分団を対象とした教養訓練



めざす都市像の実現に向けて取り組む施策

- 16.災害に強い都市基盤の整備を進めます
- 17.防災・減災対策を進めるとともに、地域防災力の向上を支援します
- 18.市民の命を守る消防体制の充実強化をはかります
- 19.犯罪や交通事故のない、安心・安全な地域づくりを進めます
- 20.衛生的な環境を確保します
- 21.安心・安全でおいしい水道水を安定供給します
- 22.消費生活の安定・向上と、食の安全・安心を確保します



主な成果指標	直近の現状値	目標値令和5年度	目標値令和12年度
災害に強いまちづくりができるていると思う市民の割合	51.8% (平成30年度)	55%	65%
119普通報受付から病院収容までの平均時間	31.3分 (平成30年)	30分以下 (令和5年)	30分以下 (令和12年)

快適な都市環境と自然が 調和したまち



なごや生物多様性
保全活動協議会
会長

長谷川 泰洋さん

自然と共に共生する未来へ
身近にある自然生態系を
市民の宝として守っていく

—なごや生物多様性
保全活動協議会につ
いて教えてください。

なごや生物多様性
保全活動協議会は、名
古屋市に生息・生育す
る生物とその環境を継
続的に調査し、生物多様性の現状
把握や外来種の防除などを通し
て、身近な自然の保全を目的に平
成23(2011)年5月に設立さ
れた団体です。天白区にあるなご
や生物多様性センターを拠点に、
市民・専門家・行政などが協働で
活動に取り組んでいます。

名古屋市では、都市化の進展に
伴い、開発や外来生物の侵入など
によって生物多様性が損なわれて
きました。しかし、東部丘陵地のま
とまつた緑地やため池、河川など
を中心に、現在もこの地域固有の
希少な生物を含む6000種近い
生物が生息・生育しています。こう
した現状を、「なごや市民生きもの
調査員(市民調査員)」の活動や「な

夏休みの小中学生を対象に協議会会員が講師
として行うなごや生物多様性サマースクール



「ごや生きもの一齊調査」、「なごや生物多様性サマースクール」などを通じて、広く市民の皆さんへの周知につとめています。さまざまな生きものとふれあえるサマースクールは、子どもたちに大人気んですよ。

市内各所で生きものの調査を行っているのですが、希少な種の生息が確認できたり、新たな発見があつた時、保全効果に一定の成果が見えてきた時はうれしいですね。多くの人に生きもの興味を持ってもらい、私たちの仲間になつてもらえるよう、生物多様性を魅力的にわかりやすく伝えることが重要と考えています。

自然環境とつながる 喜びを

——今後、力を入れて取り組んでいきたいことや目標は?

令和2(2020)年は、COP10で採択された生物多様性の世界目標である「愛知目標」の目標年であり、「未来へつなぐ『国連生物多様性の10年』せいかりレー」という全国的なイベントがあります。

この機会を大きな節目として、協議会では今、これまでの10年を振り返り、これから10年の展望を描こうとしています。名古屋市が生物多様性の分野で世界をリードする都市であり続けてほしいですし、そのためには、より多くの市民や企業の関心が必要です。在来の生態系を残し、それらとふれあえる機会を提供していくことで生物多様性について多くの市民の皆さんに関心を持っていただけるよう、協議会として取り組んでいきたいと考えています。

都市の自然環境はだんだん人工的なものになりつつあります。その一方で、市内には里山だけでなく、社寺林などに地域固有の生態系が多く残っています。名古屋が自然と共に生した都市になっていくためにも、市民の皆さんのがこうした生態系とふれあい、生物や自然環境とのつながりを喜べる感性や知識を育めるよう、身近な協議会をめざしていきたいです。



名古屋に富士山!?

公園にある通称“富士山すべり台”という遊具をご存知でしょうか?約50年前に名古屋市職員が設計した名古屋発祥の遊具で、市内をはじめ東海地域に多く設置されています。色や形、大きさなど、それぞれに個性がありますが、末広がりのフォルムや、公園のシンボルとなる存在感は、日本の名峰「富士山」のイメージが重なります。今度の休日、身近な公園で富士登山を楽しんでみてはいかがでしょうか?



1966年度に設置された第1号の「富士山滑り台」(吹上公園[名古屋市昭和区])



めざす都市像の実現に向けて取り組む施策

- 23.大気や水質などが良好に保たれた快適な生活環境を確保します
- 24.身近な自然や農にふれあう環境をつくります
- 25.公共交通を中心とした楽しく快適なまちづくりを進めます
- 26.良好な都市基盤が整った生活しやすい市街地を形成します
- 27.歩行者や自転車にとって安全で快適な道路環境を確保します
- 28.バリアフリーのまちづくりを進めます
- 29.多様なニーズに対応した安心・ゆとりある住生活の実現・継承をはかります
- 30.市民・事業者の環境に配慮した活動を促進します
- 31.低炭素都市づくりを進めます
- 32.3Rを通じた循環型都市づくりを進めます



主な成果指標	直近の現状値	目標値令和5年度	目標値令和12年度
公共交通が便利で利用しやすいと思う市民の割合	81.6% (平成30年度)	83%	85%
ごみ・資源の総排出量	88.8万トン (平成30年度)	88万トン	87万トン

魅力と活力にあふれ、 世界から人や企業を開かれたまち

気軽に人と文化が
つながる場を

—グローカル名古屋について教
えてください。

多文化共生の社会づくりをめざす事業として、英会話教室「旅人の英会話」、宿泊施設「グローカル名古屋バツクパツカーズホステル」、飲食店「グローカルカフェ」、「喫茶モーニング」を運営しています。グローバル（世界）とローカル（地元）の接点を持つことで、名古屋という地元で異文化交流ができる、人と文化がつながる場づくりを目的としています。

違いを尊重し、
多様な人が受け入れ
られるまちへ

例えば、バツクパツカーズホステルの場合、単なる外国人向けの宿泊施設ではなく、ホステル兼カフェ（1階がグローカルカフェ、2階がホステル）のスタイルであることが特徴です。ホステルだけでは

泊まる必要のない地元の人は来てくれませんが、カフェであれば地元の人も気軽に来ることができますよね。そこで、英語などが話せる私たちスタッフが間に入り、コミュニケーションを後押しします。「今日はこんなところへ行つてきた」という旅行者に対して、「ここもオススメだよ」と地元の人が穴場を教えてあげる。気軽に自然な交流が生まれています。中には意気投合して、帰国後も交流が続いているたり、日本への留学のきっかけになつたりしているんですよ。

——今後、力を入れて取り組んでいきたいことや目標は？

最近、名古屋でも海外の文化と

名古屋の資源を活かして
グローバル（世界）と
ローカル（地元）をつなぐ

グローカル名古屋
代表

市野 将行さん





の接点を持つ機会が増えていると
思います。身近なところでは、コ
ンビニの店員さんがそうですが、
市内でもたくさんの外国人が
働いていますが、まだまだ彼らと
の交流や関わり合いが少ないと思
います。私たちの取り組みも、もつ
とまちにアプローチしていきたい
と考えています。異文化交流の面
で、自分たちが主導的に人材育成
したり、もっと気軽に交流できる
場や仕組みをまちの中に広げてい
きたいです。

令和元（2019）年5月にオー

ブンした「喫茶モーニング」は、一
つの拠点（グローカルカフェ＆ホス
テル）の中だけで多様性を尊重す
る場づくりを行なうのではなく、他

との協働によってもつとまちへ広
がっていく、浸透していくような
取り組みへ発展できるよう意識
した店づくりに取り組んでいま

す。「喫茶モーニン
グ」は、商店街とい
うローカルかつ日
常的な時間の中で、
多様な価値観が交
流する空間です。老
若男女、日本人も
外国人も、地元の人
も観光客も、どんな
人でも目的に応じ
てくつろげる場所で
ありたいと考えてい
ます。

すべての事業を

通じて大切にしているのは、人が
持つ多様な価値観やバックグラウ
ンドを尊重すること。常に心を
オープンにして、一人ひとりと向
き合うことを大切に考えていま
す。名古屋全体で多文化共生の取
り組みがもっと進んで、違いを尊
重し、多様な人が受け入れられる
国際都市になつてほしいですね。
私たちと関わる人だけでなく、名
古屋に住む人、来る人、みんなに
とつて名古屋がもっと楽しく、愛
着が持てるおもしろいまちであつ
てほしいですね。

column ライン 匠の刻銘

名古屋城の天守台（天守閣の土台
の石垣）には、隅角部を中心に、石
垣を築いた加藤清正（現在の熊本
県にあたる肥後国（ひごのくに）の大
名）の家臣団が、それぞれの名を
刻んで残しています。代表的なもの
としては、大天守台の石垣の北東角
(本丸を不明門から出てすぐ左側)、
下から5石目の角石（すみいし）に
「加藤肥後守 内小代下総」という文
字が読み取れます。ぜひ探してみて
ください。



「加藤肥後守 内小代下総」と刻まれた角石



ホステル長期滞在者の旅立ちを祝してお別れパーティーを開催

めざす都市像の実現に向けて取り組む施策

- 33.世界に誇れる都市としてふさわしい都心機能・交流機能を高めます
- 34.国際的に開かれたまちづくりを進めます
- 35.港・水辺の魅力向上をはかります
- 36.魅力的な都市景観の形成を進めます
- 37.歴史・文化芸術に根ざした魅力向上をはかるとともに、市民による
魅力発信を促進します
- 38.観光の振興・MICE（マイス）の推進と情報発信により交流を促進します
- 39.スポーツを活かしてまちの魅力と活力を高めます
- 40.地域の産業を育成・支援します
- 41.新たな価値を創造する産業を振興するとともに、産業交流を促進します



主な成果指標	直近の 現状値	目標値 令和5年度	目標値 令和12年度
観光客の満足度	78.2% (平成29年)	90% (令和5年)	90%以上 (令和12年)
雇用就業者1人当たり 市内総生産	9,087千円 (平成28年度)	9,700千円 (令和3年度)	11,000千円 (令和10年度)

市民サービスの推進

ています。人と人、人と社会がつながりを取り戻す。人と向き合い、付き合っていくことは、わずらわしいこともあります。あきらめではない。かけがえのない豊かさは、その先にこそあると信じたいです。

全国に誇れる 「みんなの港まち」へ

——港まちづくり協議会について教えてください。

港まちづくり協議会は、名古屋港エリアをフィールドに、住民と行政の協働によるまちづくり活動を行っています。「なごやのみ（ん）なとまち」をコンセプトに、名古屋中、そして、全国に誇れる「みんなの港まち」をめざし、「暮らす、集う、創る」をテーマに、防災、子育て、コミュニケーション、まちの魅力やにぎわいづくり、アートプログラムなど、クリエイティブな視点を取り入れたさまざまな事業を開催しています。

日頃からまちを歩いて人に出会い、話を聞くこと、課題となつている現場をよく見ることが大切だと感じています。平成28（20

16）年からは、「み（ん）なとまちをつくるアーカイブプロジェクト」として、港まちに住む人々の個人的なエピソードを収集して展覧会も始めました。港まちの人々

へのインタビューを通して、このまちの未来について考える企画です。まちを歩いて、見たり聞いたりしたことを文章で記録していくと目には見えないもう一つの風景が立ち上がってくるんです。港まちの歴史を物語る生活道具に出会えたり、戦時中の貴重なお話が聞けたり。伊勢湾台風の体験談から、防災対策について学んだり。

ルーツや昔話がまちの未来を考えるための手がかりになる。人々のなつかしい記憶は、まちの未来の絵姿を示してくれているような気がします。

今のまちづくりの肝は、人と社会との関係性の再構築。だと考

大切なのは 実践への第一歩

——今後、力を入れて取り組んでいきたいことや目標は？

人と社会の関係性が回復するという願いが僕にはあります。まちづくりと真剣に向き合っていると、自分づくりにもつながってく

るんです。逆に言えば、自分の人生に真摯に向き合う人が社会を変えていくキーパーソンだと思います。そんな人たちにこれからも数多く出会っていきたいですね。僕らは、そうした人々が集うハブになれたらと思います。

僕がまちづくりに出会ったのは

大学院生の時でした。愛知万博を契機に再生をめざす地域を大学で応援するプロジェクトがきっかけです。何一つできない未熟な若者



港まちづくり協議会の中長期ビジョンである「み（ん）なとまちVISION BOOK」の改訂ワークショップの風景

現代のまちづくりは 人と社会とその関係性を 再構築すること



港まちづくり協議会
事務局次長

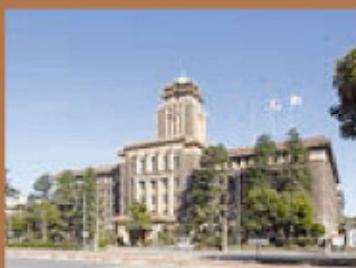
古橋 敬一さん

都市像の実現に向けて

column

歴史を知る者

現在の名古屋市役所(本庁舎)は、昭和8(1933)年に完成した建物で、平成26(2014)年に国の重要文化財に指定されました。中に入ると、緑色の穏やかな光が灯る中央階段の照明器具や、落ちていた色調でまとめられた中央廊下壁面の陶製タイル、表面が波打つ窓ガラスなど、完成当時の雰囲気が色濃く残っています。また、玄関ホールや中央階段には、国会議事堂と同じ大理石が使用されていて、よく見ると化石が埋まっています。



名古屋市役所本庁舎

を、地域は丸ごと受け入れてくれました。そうすると不思議と力が湧いてくる。誰にだって役割があるんです。若い頃の濃密なまちづくり体験が僕の人生を支えてくれています。本当は、人は誰しも自分の関わるまちを見つけなければなりませんのかかもしれません。まちづくりって本当に楽しめる。その感覚は今も変わりません。自分の人生を大切にしたいと思うなら、それを支えてくれる人や社会について考えたり行動することは、とても自然なことのように感じています。これからもみんなと一緒に、まちづくりに取り組んでいきたいですね。

市民サービスの推進に向けて取り組む施策

- 42.市民サービスの向上を進めます
- 43.市民への情報発信・情報公開と、個人情報保護を進めます
- 44.地域主体のまちづくりを進めます
- 45.公共施設の適切な維持管理、保有資産の有効活用を進めます



主な成果指標	直近の現状値	目標値令和5年度	目標値令和12年度
区役所・支所窓口における対応に満足している市民の割合	97.1% (平成30年度)	100%	100%
地域の住民によるまちづくりが活発に行われていると思う市民の割合	30.3% (平成30年度)	40%	60%

飛躍するチャンス!!

重要な柱となる2つのプロジェクトを紹介します。

第20回アジア競技大会の開催



2026年
9月19日(土)
～
10月4日(日)

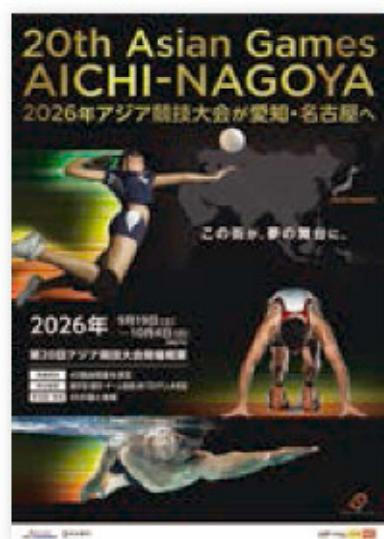


観客
約150万人



選手・大会関係者
約1.5万人

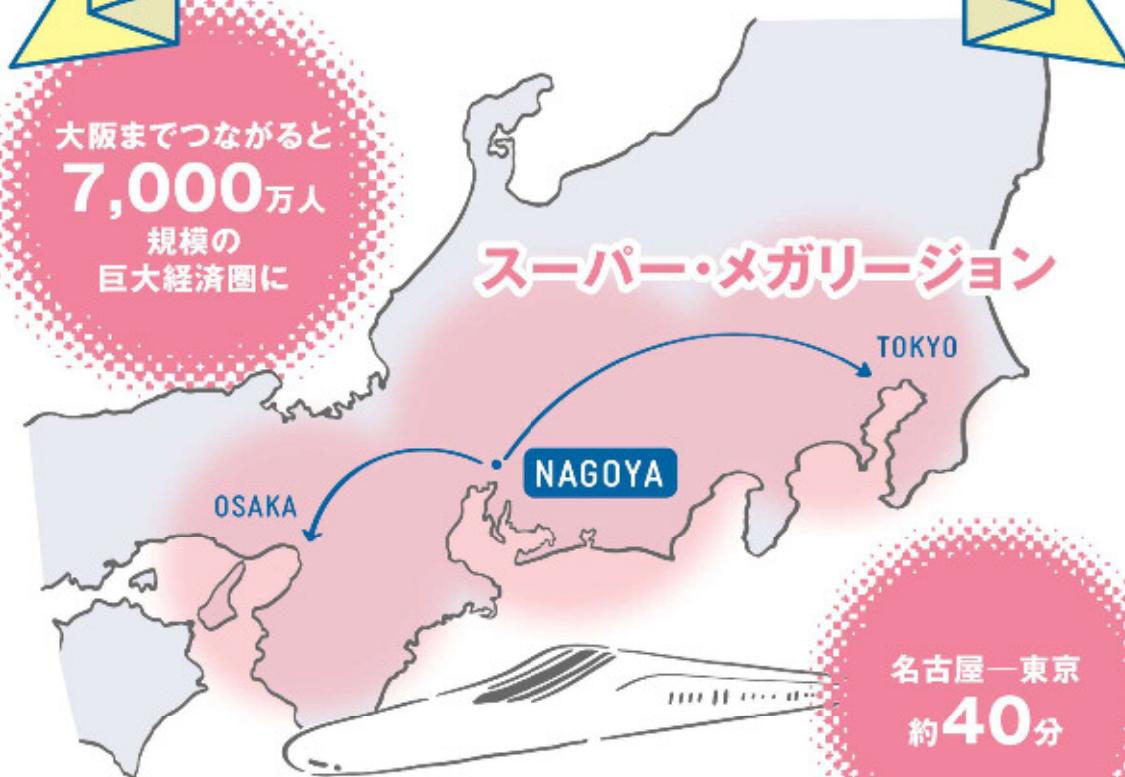
令和8(2026)年に、愛知県及び名古屋市において、第20回アジア競技大会の開催が予定されています。「アジア版オリンピック」ともいわれるアジア最大のスポーツの祭典で、日本での開催は実に32年ぶりとなります。大会期間中には、選手や監督・コーチなど大会関係者約1.5万人、観客約150万人の来訪が見込まれることから、名古屋の魅力を世界に発信する千載一遇の機会として活かし、一過性のスポーツイベントに終わらせるのではなく、その開催効果をスポーツの振興や交流人口の拡大、国際交流の促進、共生社会の実現、国際競争力の強化など、さまざまな分野につなげていきます。



名古屋のまちが

これからの名古屋のまちづくりを進める上で

リニア中央新幹線の開業



名古屋のまちが飛躍するチャンス!!

令和9(2027)年に、リニア中央新幹線(品川—名古屋間)の開業が予定されています。日本独自の技術である超電導リニアによって、名古屋と東京が約40分でつながり、首都圏との交流がより活発になると見込まれています。さらに、全線開業後には、東京・名古屋・大阪が約1時間で結ばれ、7,000万人規模の世界最大の人口を有する巨大経済圏「スーパー・メガリージョン」が誕生します。名古屋市はその中心都市として、強い経済力や地理的優位性などの強みを最大限に活かすとともに、名古屋駅のスーパーターミナル化をはじめ、ソフト・ハード双方の投資を積極的に行い、魅力的で世界から人をひきつける国際都市の実現をめざします。



私たちの暮らしや未来と 世界の問題はつながっている

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



エスディィージーズ 持続可能な開発目標(SDGs)とは



持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)とは、平成27(2015)年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて掲載された世界共通の目標で、健康や教育、経済成長、気候変動に関するものなど、幅広い17の目標と169のターゲットが設定されており、令和12(2030)年までの達成をめざすものです。

名古屋市はSDGs未来都市として、 持続可能な未来を切りひらきます！

名古屋市は、令和元(2019)年7月にSDGsの達成に向けた優れた取り組みを提案する都市である「SDGs未来都市」に国から選定されました。

総合計画の推進を通じて、市民・企業・NPOなど多様な主体と連携し、SDGsの達成に率先して取り組み、「誰一人取り残さない」経済・社会・環境が調和した持続可能なまちづくりを進めます。



SDGs未来都市選定証授与式
(中央が名古屋市堀場副市長。愛知県、豊橋市とともに撮影)

SDGs